

SMSによる介入により糖尿病の血糖管理が改善

コントロールが不良な糖尿病患者において、論理的かつ個別に作成されたテキストメッセージ（＝ショートメッセージサービス [SMS]）を用いた糖尿病自己管理サポートプログラムの有効性について検討した。

ニュージーランドの1次および2次医療サービスにおいて、16歳以上の1型または2型糖尿病患者でコントロール不良な366例を対象に、2群平行群間比較ランダム化試験を9ヶ月間実施した。2015年6月から2016年11月に、介入群（183例）または対照群（183例）に無作為に割り付けた。介入群には、通常のケアに加えて個別に作成されたテキストメッセージを9か月間送信した。テキストメッセージでは、糖尿病自己管理や生活スタイルの情報、サポート、動機付け、リマインダーを提供した。対照群には通常のケアのみを行った。主要評価項目は、9ヶ月時点での血糖コントロールの変化とした。副次評価項目は、3か月、6か月時点でのHbA1cの変化、9ヶ月時点での効果の自覚、糖尿病セルフケア行動、糖尿病に対する知識と信条、健康に関連するQOLなど21項目とした。結果、9か月時点でHbA1cについては介入群（平均 -8.85mmol/mol ）が対照群（ -3.96mmol/mol ）よりも有意に低下した（補正後平均差： -4.23 , $P=0.007$ ）。副次転帰については、9ヶ月時点で介入群に有意な改善がみられたのは21項目のうち4つのみで、足のケア（補正後平均差： 0.85 , $P<0.001$ ）、全体的な糖尿病のサポート（同： 0.26 , $P=0.03$ ）、視覚アナログスケールによる健康状態（同： 4.38 , $P=0.03$ ）、糖尿病の症状の自覚（同： -0.54 , $P=0.04$ ）であった。本サポートプログラムに対する満足度は高く、161例（95%）が役立つと報告し、164例（97%）が他の糖尿病患者にも勧めたいと報告した。

したがって、コントロール不良な糖尿病患者において、テキストメッセージを用いた糖尿病自己管理サポートプログラムによりいくらか血糖コントロールが改善することが示された。臨床的意義についてはまだはっきりしないが、このような患者集団にはテキストメッセージを用いたサポートの利用について、さらなる研究を支持する結果となった。

出典：British Medical Journal. 2018 May 17; 361: k1959.